



ITU-R SG7（科学業務）関連会合報告

総務省 総合通信基盤局 電波部 基幹・衛星移動通信課 国際係

1. はじめに

2025年3月17日～27日にかけて、科学業務（標準周波数報時業務、宇宙運用業務、宇宙研究業務、気象衛星業務、地球探査衛星業務、電波天文業務等）を所掌するITU-R（無線通信部門）SG7（Study Group 7：第7研究委員会）会合及びその配下のWP（Working Party：作業部会）であるWP7A、WP7B、WP7C及びWP7D会合が開催された。会合はスイス連邦（ジュネーブ）のITU本部で、オンライン参加も同時に行うハイブリッド方式で実施された。日本からは、総務省、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、情報通信研究機構（NICT）、国立天文台、テレコムエンジニアリングセンター、KDDI、電波産業会（ARIB）、ワシントンコアから計19名が参加した。

2. SG7会合

2025年3月27日、SG7会合が開催された。本会合は、各WPから提出された勧告案、報告案及び研究課題案の審議を行う場であり、議長はMarkus DREIS氏（欧州気象衛星開発機構（EUMETSAT））が務めた。42か国の主管庁、16のROA（Recognized Operating Agency：認められた事業体）と他団体及びITU事務局から合計254名が参加し、31件の入力文書について審議が行われた。

前回のSG7会合（2024年3月開催）において議長代理（Acting Chair）とされていた各WPの議長が、今回の会合で正式に任命された。なお、WP7D議長については、Anastasios TZIOUMIS氏（オーストラリア）が退任し、2025年3月会合からBalthasar INDERMÜHLE氏（オーストラリア）が就任したことが報告された。表1にSG7の構成を示す。

会合では、前回SG7会合の報告、RAG（Radiocommuni-

cation Advisory Group）会合（2024年4月）報告、WRC-27の準備作業関連の報告がなされた。また各WPは、2024年3月のSG7会合以降3回（2024年3月、2024年9月及び2025年3月）の会合を開催しており、それぞれの活動について各WP議長から報告がなされた。

さらに、SG7傘下のWPから上程された文書の審議が行われ、次のとおり決定した。

• 承認された文書

WP7B

- ・ ITU-R新報告案 SA. [LUNAR.SRS STATIONS CHAR]

WP7C

- ・ ITU-R報告RS.2310-1改訂案
- ・ ITU-R報告RS.2489-0改訂案

WP7D

- ・ ITU-R新報告案 RA. [HARMONICS]
- ・ ITU-R新報告案 RA. [RAS-IMT-COMPAT-43-GHZ]

• PSAAによる採択、承認手続きに付された文書

WP7B

- ・ ITU-R新勧告案 SA. [2GHZ SOS CHAR]
- ・ ITU-R勧告 SA.2141-0改訂案

WP7C

- ・ ITU-R勧告 RS.1166-5改訂案
- ・ ITU-R勧告 RS.2105-2改訂案

なお、SG7に提出された他WP・他部門からのリエゾン文書については情報として了知された。

3. WP7A会合

WP7Aは、標準時及び標準周波数の通報業務を扱う作業部会であり、Joseph ACHKAR氏（フランス）が議長を

表1. SG7の構成

WP	検討案件	議長
WP7A	標準時及び標準周波数の通報	Joseph ACHKAR氏（フランス）
WP7B	宇宙無線アプリケーション	Catherine SHAM氏（米国）
WP7C	リモートセンシング	Bruno ESPINOSA氏（ESA）
WP7D	電波天文	Balthasar INDERMÜHLE氏（オーストラリア）



■表2. WP7Aの審議体制

WP/WG	検討案件	議長
WP7A	標準時及び標準周波数の通報	Joseph ACHKAR氏（フランス）
DG-1	WRC-27 課題1.15対応	Warren WALLS氏（米国） Felicita ARIAS氏（フランス）
DG-2	Handbook	Warren WALLS氏（米国） Judah LEVINE氏（米国）
DG-3	勧告TF.460改訂	Wlodek LEWANDOWSKI氏（ポーランド）

務めた。本会合の審議体制を表2に示す。

33か国の主管庁、5つのROAと他団体及びITU事務局から合計156名の出席があり、11件の入力文書について審議が行われ、計2件の出力文書が作成された。

3.1 ITU-R勧告TF.460改訂

ITU-R勧告TF.460-6（標準周波数・時刻電波）は、決議第655（WRC-23、改）に伴う改訂作業中である。現状では2025年3月会合でも寄与文書を反映し、勧告改訂草案に向けた作業文書として持ち越した。現在もTAI-UTCの記述を同勧告中に残すべきかについての結論は出ておらず、今後も国際度量衡局（BIPM）とITUの間で締結されたMoUの順守とITUの構成国などのニーズに合った解決策についての議論を次回WP7A会合で継続する。英国から本勧告の改訂作業の見通しについて質問があり、2026年春会合での完成を目指すことが、WP7A議長から説明された。

3.2 Handbook on Selection and Use of Precise Frequency and Time Systems改訂

同ハンドブックは1997年に発行されたもので、その後の変化を反映するための改訂作業を行っている。議論継続の

ためCGが設置され、1年後に作業完了を予定している。

本ハンドブックについて、WPに承認の権限を委譲する提案がSG7議長からなされたが、イランが本件はセンシティブな内容であるとして反対を表明し、関連する勧告（ITU-R勧告TF.460を指す）についてもPSAAではなく通常の二段階の採択・承認手続きによって行うべきであると主張したため、同ハンドブックについては完成後SG7での承認を求めることになった。また、勧告の承認手順に関する選択肢については、SG7議長からケースバイケースであるため、事前に決めることではないとの見解が述べられた。

4. WP7B会合

WP7Bは、宇宙研究業務（SRS）、宇宙運用業務（SOS）、気象衛星業務、気象援助業務を扱う作業部会であり、Catherine SHAM氏（米国）が議長を務めた。本会合の審議体制を表3に示す。

今回会合には、40か国の主管庁、3つのROAと他団体及びITU事務局から合計311名の出席があり、日本からの寄与文書2件を含む52件の入力文書について審議が行われ、計22件の出力文書が作成された。

■表3. WP7Bの審議体制

WP/WG/DG	検討案件	議長/議長代理
WP7B Plenary	WGに割り当てられない文書及び複数のWGで作業を分担する文書	Catherine SHAM氏（米国）
WG7B-1	静止衛星及び静止軌道以下のSRS及びSOS等（WRC-27議題 1.1、1.2、1.6、1.7、1.11（SOS s-E関連）、1.12、1.13、1.14）	Ted BERMAN氏（米国）
DG SA. [2GHZ SOS CHAR]	ITU-R新勧告草案SA. [2GHZ SOS CHAR]	廣谷 奈々美氏（日本）
WG7B-2	静止軌道以遠のSRS及びSOS等 WRC-27議題1.15及び同議題と対象が重複する議題（WRC-27議題1.7、1.11、1.13、1.19）	Kevin KNIGHTS氏（オーストラリア）
WG7B-3	地球探査衛星業務及び気象衛星（MetSat）業務等 WRC-27議題1.11（EESS）、1.12、1.13、1.14、1.17、1.19	Philippe TRISTANT氏（フランス/EUMETSAT）



4.1 新ITU-R勧告草案SA. [2GHZ SOS CHAR]

新ITU-R勧告草案SA. [2GHZ SOS CHAR] については、日本からの提案を含む3件の寄与文書が提出され、今回合合での新勧告案への格上げが提案された。

本項目について、DG（議長：廣谷 奈々美氏（日本、JAXA））を設置し、新勧告草案の更新について審議・修正し、出力文書をプレナリに上程した。中間プレナリでの審議で指摘事項があり、WGでの審議に差し戻されたが、修正を加えた後改めてプレナリに上程された。プレナリで軽微な修正を行った上で承認され、新勧告案としてSG7に上程され、修正ののちPSAAに付すことで合意した。

4.2 新ITU-R報告草案SA. [LUNAR.SRS STATIONS CHAR]

WRC-27議題1.15（決議第680（WRC-23））に基づく研究の一環として作成されている新ITU-R報告草案SA. [LUNAR.SRS STATIONS CHAR] について、更新案の審議が行われた。月近傍での通信の特性情報などが更新され、新報告草案を報告案に格上げし、ITU-R報告SA.2553-0として発行された。

4.3 新ITU-R報告草案SA. [LUNAR 1.15 STUDIES]

WRC-27議題1.15（決議第680（WRC-23））に基づく研究の一環として作成されている新ITU-R報告草案SA. [LUNAR 1.15 STUDIES] について、更新案の審議が行われた。各国から寄与文書の提案及び文書の更新の審議が行われ、草案はWP議長報告書に添付し、引き続き更新作業を継続することとなった。また、WRC-27議題1.15に基づき検討している共用検討の状況について、WP5B及びWP5Dヘリエゾン文書を送付し連絡することになった。

究業務の能動・受動センサーアプリケーションに関する事項を扱う作業部会であり、Bruno ESPINOSA氏（欧州宇宙機構（ESA））が議長代理を務めた。本会合の審議体制を表4に示す。

今回合合は、43か国の主管庁、1つのROAと他団体及びITU事務局から合計297名が出席し、95件の入力文書について審議が行われ、計42件の出力文書が作成された。

5.1 ITU-R勧告RS.577（地球探査衛星業務（能動）及びSRS（能動）の衛星搭載能動センサーの周波数帯及び必要帯域幅）改訂

前回合合では、衛星搭載能動センサーの周波数帯及び必要帯域幅をまとめているITU-R勧告RS.577の改訂作業において、40-50MHz帯レーダーサウンダー情報の追加（WRC-23議題1.12における議論の反映）等が行われた。

今回議論の結果、WP7C会合においては帯域幅の数値の一致を試みる作業は行わず、次回WP7C会合以降で議論を継続することとなった。

「今回WP7C会合へは入力が間に合わなかったが、次回WP7Cにて追加の内容を提案予定であるため、今回WP7C会合における勧告改訂案への格上げは反対する」との意見が表明されたため、勧告改訂草案のステータスで議長報告へ添付されることとなった。

5.2 WRC-27議題1.17関連（受信専用の宇宙天気センサー及びその保護に関する規則条項）

WRC-27議題1.17は、決議第682（WRC-23）に従い、ITU-Rの研究結果を考慮し、無線通信規則における受信専用の宇宙天気センサー及びその保護に関する規則条項を検討するものであり、本会合で議論が進められた。

受信専用の宇宙天気センサーの保護基準のITU-R新勧告草案の作業文書については、日本から太陽電波バーストに基づき太陽スペクトル計の保護基準を定めることを提案

5. WP7C会合

WP7Cは、地球探査衛星業務、気象援助業務、宇宙研

表4. WP7Cの審議体制

WP/WG	検討案件	議長/議長代理
WP7C Plenary	WGに割り振られない課題（WRC-27議題1.14）	Bruno ESPINOSA氏（ESA）
WG7C-1	能動センサーに関する課題（WRC-27議題1.2、1.4、1.8（EESS（能動）のみ）、1.15、WRC-31暫定議題2.12、2.13）	三留 隆宏氏（日本）
WG7C-2	気象援助及び宇宙天気（WRC-27議題1.17（責任グループ）、1.11）	Eric ALLAIX氏（フランス）
WG7C-3	受動センサーに関する課題（WRC-27議題1.18（resolves 1）と1.19（責任グループ）及び議題1.1、1.2、1.6、1.7、1.8	David FRANC氏（米国）



した。しかしながら、詳細な議論は次回WP7C会合に延期されることとなった。その旨のEditor's noteを付した上で、日本の提案した改訂内容も反映する形で作業文書が更新された。

議題1.17の準備検討の結果を収録するITU-R新報告草案の作業文書については、提案を基に、伝搬モデル及び技術・運用特性、共用・両立性に関する各章及び共用検討等を収録する附属書が作成された。

議題1.17のCPMテキスト案については、提案された更新案を反映する形で更新されたが、提案に関して懸念が解消されないため、更なる検討が必要であるとされた。CPMテキスト案は、議長報告に添付され、継続審議となった。

宇宙天気センサーの現状をまとめたITU-R報告RS.2456については、改訂作業が開始され、宇宙天気センサーなどが追加された。

6. WP7D会合

WP7Dは、電波天文業務 (RAS) を扱う作業部会であり、Balthasar INDERMÜHLE氏 (オーストラリア) が議長を務めた。本会合の審議体制を表5に示す。

今回合は、45か国の主管庁、5つのROAと他団体及びITU事務局から合計242名が出席し、56件の入力文書について審議が行われ、計29件の出力文書が作成された。

6.1 WRC-27議題1.16関連

WP4Aへのリエゾン返書は合意に至った。また、新報告案に向けた作業文書ITU-R RA. [NGSO-RAS-RQZ]、新勧告案に向けた作業文書ITU-R RA. [RAS-NGSO]、resolves 3 of Resolution 681 (WRC-23) についての作業文書エレメン

ト、AI1.16議論のための文書ITU-R RA. [AI] は、議長報告に添付して今後の会合で議論を継続することとなった。

6.2 WRC-27議題1.18関連

WP4Aへのリエゾン返書は合意に至り、WP4Aに送られることとなった。WD PDN Rep. ITU-R RA. [RAS-SAT 71-235GHZ] は、報告ではなくsupporting documentとする可能性も持たせた上で、合意された。

WD PDN Revision Rec. ITU-R RA.1631は、一部文言を [] で囲んだ状態で合意された。

Resolution 739 (WRC-19) の改訂については、現時点で決議内の干渉閾値の表を改訂するのは時期尚早であるとして、その旨をEditor's noteに加えられた。

7. 次回会合の予定

次回会合は、以下の日程で開催される予定である。

WP7B、WP7C	2025年9月16日～25日	ジュネーブ
WP7D	2025年9月15日～24日	ジュネーブ
WP7A	2026年4月13日～23日	ジュネーブ
SG7	2026年4月24日	ジュネーブ

8. おわりに

2025年3月に開催されたSG7関連会合では、日本から計5件の寄与文書を入力し、各作業文書等の随所に反映された。また、SG7関連会合への対応を検討する国内の議論においても、活発な提案・議論をいただいた。

最後に、本会合に向けてご準備をいただき、会合対応をいただいた日本代表団の皆様をはじめ、関係各位にこの場を借りて感謝申し上げます。

表5. WP7Dの審議体制

WP/WG/SWG	検討案件	議長
WP7D Plenary		Balthasar INDERMÜHLE氏 (オーストラリア)
WG7D-1	WRC-27 AI 1.16	Jonathan WILLIAMS氏 (米国)
WG7D-2	WRC-27 AI 1.18	Ivan THOMAS氏 (フランス)
WG7D-3	WRC-23決議、研究課題、その他	Balthasar INDERMÜHLE氏 (オーストラリア)